

【目的】地方における歴史的居住地域を対象として、居住者の現代的な生活の要求をふまえた住環境整備のあり方を考える基礎的資料とするため、居住来歴に着目し、居住者特性を明らかにすることを目的とする。

【方法】旧宿場町滋賀県坂田郡米原町醒井を事例とし、留置法自記式の質問紙による悉皆調査を行った。調査期間は1994年8月下旬で、有効回収票数は204、回収率は82%である。

【結果】醒井の居住者を居住来歴からみることで、醒井内での居住地域、住宅の種類・所有、就業先、通勤時間、家族構成による特性と性別による違いが明らかになった。世帯は定住世帯、帰郷世帯、転入世帯に分類され、醒井出身の世帯主は約6割、定住世帯と転入世帯が4割ずつ同じ割合で存在する。出身は醒井のある琵琶湖の東北部が多く、9割が滋賀県内出身である。定住世帯は旧街道沿いにみられ、世代同居が多い。帰郷世帯は住宅事情や家業継承あるいは転勤による世代同居である。男性定住者には住宅の所有と長男の跡取り意識、住み慣れていることが重視されている。帰郷者は進学や就職等で転出し、住宅の所有と家の事情で帰郷している。転入者は醒井周辺からの移住や、養子に入り家業を継ぐ者である。帰郷者、転入者ともに醒井での居住に満足している。一方、女性については、定住者は50歳以上の高齢で、跡取りや住み慣れている者である。帰郷者は夫の転勤など家の事情に影響されて転出入している。通婚圏はほぼ滋賀県内で、転入者は8割が結婚を機に転入し、醒井での居住に不満を感じる者が30歳代に存在する。女性は醒井の生活に不便である者が多く、特に余暇を過ごすような施設の充実を期待している。